

第49回 日本ジオパーク委員会議事録

日時：2023年9月29日(金) 10:00～13:00

場所：ちよだプラットフォームスクウェア 504～506 会議室

<委員長>

中田 節也 国立研究開発法人 防災科学技術研究所火山研究推進センター 参事
東京大学名誉教授

<副委員長>

宮原 育子 宮城学院女子大学現代ビジネス学部教授
宮城大学・宮城学院女子大学名誉教授

<委員>五十音順

ヴォウォシェン・ヤゴダ 一般社団法人 隠岐ジオパーク推進機構 事務局員
大野 希一 一般社団法人 鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会 事務局次長兼主任研究員
久保 純子 早稲田大学 教育学部 教授
柴尾 智子 元公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)
欠 下田 一太 筑波大学 人間総合科学学術院 准教授
菅原 久誠 群馬県立自然史博物館 地学研究係 主幹
田中 裕一郎 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質調査総合センター
シニアマネージャ・招聘研究員
新名 阿津子 高知大学 教育研究部人文社会科学系 人文社会科学部門 講師
橋詰 潤 新潟県立歴史博物館 学芸課 専門研究員
長谷川 修一 香川大学 四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構 副機構長
香川大学特任教授
長谷川 卓 金沢大学 理工研究域地球社会基盤学系 教授
山口 勝 日本放送協会横浜放送局 放送部 チーフアナウンサー
横浜国立大学 総合学術高等研究院 客員教授
渡辺 綱男 一般社団法人 自然環境研究センター 上級研究員
渡辺 真人 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質情報基盤センター 地質標本館室
シニアスタッフ

<日本ユネスコ国内委員会>

匂坂 克久 文部科学省 国際統括官付国際交渉分析官/日本ユネスコ国内委員会副事務総長
鶴岡 泰二郎 文部科学省 国際統括官付ユネスコ第三係長

<関係省庁(オブザーバー)>

上村 兼輔 内閣府 地方創生推進室 主査(内閣官房 デジタル田園都市国家構想実現会議事務局)
柴田 伊廣 文化庁 文化財第二課 文化財調査官
樫野 誠 国土交通省 水管理・国土保全局砂防部砂防計画課地震・火山砂防室 課長補佐

小野 里沙子 国土交通省 観光庁 観光地域振興部 観光資源課 自然資源活用推進室 主査
新井 貴之 気象庁 地震火山部 火山監視課 火山防災推進室 噴火予知調整係
萩原 和子 環境省 自然環境局 国立公園課 国立公園利用推進室
エコツーリズム推進専門官 ジオパーク担当

<事務局>

古澤 加奈 JGN 事務局長
田上 順一 JGN 事務局次長
山崎 由貴子 JGN 事務局員
関村 絢 JGN 事務局員
新田 竜之介 JGN 事務局員

【開会・委員長あいさつ・報告事項】

委員長：皆さん、おはようございます。まだ暑い日が続くが本日もよろしく願います。

蔵王と山陰海岸の議論が2つあるが、午前中に終わると思うので適宜よろしく願います。

日本でのユネスコ再審査が7月の始めからアポイ岳、洞爺湖有珠山、室戸で行われた。世界の審査も、日本からも中国に審査に行ったりした。この再審査に同行された方のお話しを後で短くコメントしていただきたいと思う。

それから9月4日、5日にモロッコのマラケシュで第8回ユネスコ世界ジオパーク・カOUNシル会議が開催された。そこでは新規24地域、再審査34地域の審査を2日間、計58地域の審査を行った。その結果、19地域の新しいジオパークをユネスコ執行委員会に認定勧告することを決定した。全くの新規が16地域と、保留になっていた3地域を加えた19地域。来年の春にはこのままでいくと、224地域のユネスコ世界ジオパークが成立することになる。

それから34地域の再審査のうちの5地域にイエローをだした。日本の3地域はグリーンという結果になった。

今年の12月に今回審議が終わらなかったものについて、オンラインで第2回目を開催することになっている。そこでは新規2地域、領域拡大1地域、再審査22地域が1日のオンラインで議論されると思う。

モロッコではそれに引き続いて9月6日にAPGNのコーディネーション・コミッティの会議が行われた。日本からは全てのユネスコ世界ジオパークが参加した。

その翌日の9月7日から9日にかけて第10回ユネスコ世界ジオパーク国際会議が開催された。日本からは今回少なかったが、40名程度の方が参加されていた。

ここでの事件は、皆さんご存知のように、現地時間9月8日にマグニチュード6.8の地震があった。幸いなことに大会参加者は無傷だった。旧市街地ではいくつか家が倒壊したり、ホテルを追い出された人もいた。3千人の人が亡くなったが、ほとんどがハイアトラスマウンテンの村で、震央近くで多くの方が亡くなっている。

セッションは最終日を残していたが、中止になった。閉会式は大きなテントの中で開催され、ディナーはファミリー・ディナーという名前に変えて世界遺産のお城の中で開催された。巡検は取りやめになり、その参加費用を被災者への寄付にまわすという形をとった。

その他、色々な報告については事務局からしてもらおうが、マラケシュで地震に遭った様子を参加された委員に少しでも伝えていただければと思う。

委員：私はもう一人の委員と日本のユネスコ世界ジオパークの方と 3 人で旧市街地の方にちょっとした貸別荘のような所を借りていて、そこでコーヒーを飲みながらくつろいでいたら地震が起きた。旧市街地は狭い家が密集している所なので、揺らされても家が互いに支え合っていたような気がする。ただ、私自身は泊まっていた 2 階の窓から目の前の壁がボロッと落ちるのを見た。それで外に出て通りの方へ行ってみると、観光客の人も地元の人もパニックになっていた。バスローブを着てうろうろしている人がたくさんいた。

このままだと余震で建物が倒壊する恐れがあったので、泊まっていた 3 人と、近くにいた室戸 UGGp からの参加者とも合流して、近くの大きなモスクの広場に行きそこで一晩を過ごした。

その後は大きな余震もなく無事だったが、大きい建物は横揺れて揺らされ、背の高い建物は真ん中からヒビ割れが走ったり、上の塔がかけて落ちたりというのが散見された。

マラケシュの市街地では地元の報道によると、18 人が犠牲になったというのが最終確認されている。

こういった中で何もなかったのが不幸中の幸いだったと思うが、大会参加者の他の方は、ホテル自体に大きな被害が出て別のホテルに移動された方も少なからずいらっしゃったと聞いている。

以上となる。

委員長：ありがとうございます。

事務局から報告事項をお願いしたいと思う。

事務局：委員から被災状況をご報告いただいたが、私と委員長は実はタクシーで移動中だったということもあり揺れを感じなかった。

旧市街は 11 世紀の壁や世界遺産の建物がたくさんあり、崩れた所もあった。新市街のホテルは鉄筋コンクリートだったので、表面にヒビが入ったりはしたが大丈夫だった。

私たちは数日後に帰国したが、マラケシュの市街地は旧市街も含めて、当日のインターネットも電気もほぼ使えなし、ほぼほぼ日常を取り戻しているということ伝えるのが使命かなと思う。観光が主要産業となっているマラケシュが風評被害を受けることのないようにと思っもいる。

事務局からその他の 5 月以降の活動を報告する。6 月の前半に JGC 主催オンライン研修会を 4 日に渡って開催した。6 月 30 日には今年再認定の 5 地域を対象とした提出書類や事務手続き等の説明会を事務局がオンラインで開催している。

ユネスコの現地審査のオブザーバー参加もそれぞれ室戸、洞爺湖有珠山に 2 名ずつ委員会からも調整して参加していただいた。室戸は希望者多数により、先着で 2 名ということで調整させていただいたので、次の機会には、今回行かれなかった委員の皆さんをお願いしたいと思う。

委員長：ユネスコの再審査に同行された方から簡単に報告いただきたいと思う。

まずアポイ岳だが、私と文科省から日本ユネスコ国内委員会副事務総長の 2 名で行った。結論から言うと、Senior Evaluator が突然来られなくなった。結局、経験の多くない中国の審査員 2 人が来たので非常に甘い審査になった。この 2 名がそのまま洞爺湖有珠山に移動した。

報告書も非常に甘くて、ネットワーク、パートナーシップ、それからアイヌ等を含めたジオパークプロダクトへのジオストーリーの強化、マーケティング等ありきたりのことが書かれている。現地では事務局員 2 名がそれぞれ英語と中国語の通訳をした。

全体的な印象としては、アポイ岳は自分たちが審査を受けてあげているという感じで、受け入れ態勢が不十分だったと思う。審査員への気配りもあまりなされていない。例えば、4 日間あるうちの最初の 2 日間の夜はイベントがあったが、後の 2 日間の夜はホテルに審査員を放りっぱなしで、私と文科省担当者がケアをした。

非常に暑い中で行われたが、審査員への気配りもあまりなかったように思う。過去に2回の再審査を受けているが、世界の再審査はどういうものか理解されていないという印象を感じた。それは研修に行っていないことや、世界の審査に審査員を出していないことも非常に大きな原因だと思う。それから審査員から何か学びたいという姿勢があまり見られなかったのが非常に残念。

以上がおおざっぱな報告になる。次の審査が大変になると思う。

次は洞爺湖有珠山の報告をお願いします。

事務局：洞爺湖有珠山は、私が JGC からのサポートということで同行させていただいた。オブザーバーとして委員2名に参加していただいた。本日欠席の委員からレポートをいただいたので代読させていただく。

“洞爺湖有珠山現地審査オブザーバー参加について、7月8日～12日（5日間）にオブザーバーでの参加の機会をいただきました。今回初めての現地審査への参加でしたので、他のジオパークとの比較等はありませんが、当地のジオパークにおけるこれまでの取組みと、今後4年間（2023～2026年）の活動計画は高く評価できるものと感じました。

今後の活動計画として以下の4つの重要なポイントが示されました。

- 1) Adventure Tour Project：新たな価値観を提供するツアーの創出
- 2) Marketing Based Visual Promotion Project：対象者の関心・ニーズに基づく効果の高いツアーの創出
- 3) Geographical Indication Promotion Project：農水省の地産認定・地域ブランド化事業に準拠した活動の展開
- 4) Strengthening the Disaster Risk Reduction Culture Project：災害教育の強化（学習ツアー、出前講義、マイスター制度）

既に4点目は活動実績があり、継続的に展開する段階であり、また1、2点目も対象地と既存の事業者による一定の実績があり、今後の活動拡大に向けて潜在的な協力者も多く、確実な実行が期待されます。これら計画に関して、火山マイスターや各種事業者が各所で行ったことは、審査員に対して好印象を与えたと思われます。一方で、事務局からの説明や審査員との対話にあたっては、根拠資料が手際よく示されないなど、ややもたつく場面が少なくありませんでした。ただし、審査員が各種審査項目への確認を入念には行わなかったこともあり（通常の確認の在り方を私は存じ上げませんが・・・）、大きなフラストレーションが生じなかったのは幸いであったように思われます。

中国からの審査員2名の最終ミーティングのコメントでは、特に重大な指摘や懸念事項はなく、むしろパートナーシップの強化、世界ジオパークとの連携への貢献、減災文化の国際的共有等、今後のさらなる期待が示されました。

なお、審査員からは来訪者動向、緊急時対応や予測、マーケティング調査へのビックデータの利用の検討を求める指摘がありました。これについては SNS 等の利用が日本よりも活発な中国ならではの背景もあるかもしれませんが、日本国内ではジオパーク以外の各種遺産や保護地区にも共通する指摘であり、具体的に科学的データに裏付けられた計画策定と事業評価の実施を積極的に検討していく必要があると認識させられたところです。”

以上が委員からの報告になる。

ここにも書かれているし、委員長も先程おっしゃっていたが、洞爺湖有珠山でも審査員2名は甘く確認もおおざっぱだった。あまりつつこむところはなかったが、先程の少しもたついたらと書かれているところ

は、質問されている意図を理解するのに時間がかかったりなど、そういったやりとりはあった。これはどの審査でもあることかなとは思いますが、しっかりと納得できるようにコミュニケーションを洞爺湖有珠山ではとられていたと思う。

やはり火山マイスターは、毎回どの審査員もおっしゃるみたいだが、こんな素晴らしい取り組みをしているなら何でもっと広めてくれないのかというポジティブな意味での指摘が今回もやはりあった。

委員長：委員、この報告に追加あるか。

委員：今まで何回か行かせていただいた中でこの地域の利点は、北海道在住の研究者2名の方が事務局と火山マイスターの方ともとても緊密に信頼関係を築いている様子が見えること。同行もずっとされていた。その中で2人がおっしゃっていたが、「審査慣れ」「ガイド任せ」は注意をするとおっしゃっていて、土曜日に火山マイスターの研修会にあわせて反省会をやるとおっしゃっていたが、その結果を聞けていないのでどんな話が現地であったのかというのはとても関心がある。慣れていても地元で愛情を持って見ている先生方には、そういう面もより見えたのかなと思った。

この地域の地質にあまり関心のない審査員の方だったので、事務局が色々準備をされていたのに質問も出ず残念であった。途中から地質の話が少なくなったのは、個人的には学ぶことはたくさんあったものの、これでいいのかという疑問を国際審査に同行してみて感じた。

この地域は、ハザードマップを見てぞっとするくらい洞爺湖温泉の真ん中が持ち上がるかもしれないくらいの土地なわけだが、火山マイスターの方たちは、何かあったら私たちの行動で人の命が助かるか助からないかがかかっているんだという覚悟を決めた人たちの活動を見て素晴らしいと思った。

委員長：ありがとうございます。

次に室戸の報告をお願いします。

事務局：室戸はサポートミッションかつアドバイザーもしているということで、私が同行させていただいた。あと副委員長と委員1名がオブザーバー参加していただいた。

私から簡単に報告をすると、室戸は審査についてかなりベテランの中国のSenior Evaluatorと、審査が初めてのベトナムの審査員の方の組み合わせで来ていただいた。私は洞爺湖に引き続き同行したが、落差があり、かなり安心感があった。そしてしっかりとした審査が行われた。

一番印象に残ったのが、最後のディスカッションの際に「この課題は人口減少がすさまじく進んでいることだ」という話がでて、「この人口減少の問題に対してジオパークをつかって皆さんどうしますか」という質問。これは今回リコメンデーションに入ると思うが、室戸側からこの問題に対して「こんなことができている」と言えなかったのが少し残念だった。これから4年間の課題として取り組まれることになるかと思う。

先程、委員長からカウンスルの報告があったが、実は委員長は日本の審議には出られない。利害関係者ということで、自分の国の審議の時は席をはずすということになっている。私はオブザーバーとして参加した。洞爺湖有珠山とアポイ岳はそもそものミッションレポートが結構あっさりしていたので、あまり議論が行われなかった。

室戸は人口減少について、この問題を解決するためにエリア拡大を提案したほうがいいのではないかなという議論がなされた。エリアを拡大してもう少し見所を増やすことによって地域がさらに活性化してツーリズムもうまくいくのではないかな。その成功事例もあるので、それをリコメンデーションに含めてはどうかというのは意見が分かれた。今回は、現地の混乱を招かないためにも書かないという結論になったが、一定の議論はそこで行われたので、室戸には伝えようと思っている。

副委員長と委員からも報告をお願いします。

副委員長：室戸の審査に同行させていただいた。私は世界の審査は今回初めてだったので、どのような審査が行われるか興味津々だった。ほぼ日本の新規認定、再認定の審査と変わらない印象だった。今回、中国とベトナムの方が審査していただいたが、両審査員とも丁寧かつ熱心に事務局、ジオガイドや地元の協力者の話を聞いていたし、質問もその場その場でかなりされていた。非常に友好的に地元の方を巻き込んだ形で調査が続いた印象であった。

また、事務局は、審査に向けた準備をしっかりしていたことも分かった。各サイトでのジオガイドの説明や審査員の質問に対する回答などに対して、根拠となるような説明資料の準備がされていた。また、室戸高校の高校生も英語のプレゼンをしており、審査を受ける側も審査をする側も、非常に良いコンディションで審査が行われたと思った。

室戸の取り組みは、モデル的というか、日本のユネスコ世界ジオパークの方たちも準備の仕方を工夫し、審査員の方に対応すれば、もっと日本のジオパークのアピールになるのではないかと思う。

あと敢えて言うと、今回は、通訳が3人態勢で、それぞれが説明する分野によって得意不得意がある通訳さんだった。それを3人で補いながら、JGN 事務局長もカバーに入りながらという形だったので、やはり正確に地域のことを伝えていく工夫の必要性が日本のジオパークの課題なのかなと思った。

委員長：委員、追加はあるか。

委員：私も初めて世界の審査に参加させていただいた。

全体的な印象としては、室戸ジオパークの人たちのパワーすごいなと思った。元気いっぱい楽しそうにやっているなという感じを受けた。

その他、断片的なことにはなるが、鯨の博物館があってこれは大丈夫かと思っていたが、歴史だけを扱う博物館で、近代捕鯨については展示していない。過去の歴史と鯨の供養をしているみたいなどころを出しているのが上手いなと思った。

あと、地元の各婦人会の方が作った色んな物を持ち寄り、皿鉢料理のバイキングみたいな感じにしているのが面白くて良かった。婦人会側は色んなシチュエーションでやっていて、とても手慣れた感じで、それを上手に入れているという印象を受けた。

委員長：ありがとうございます。

以上の報告事項について質問、コメント等があればお願いしたい。

一同：(質問、コメント等なし)

委員長：なければ次に移る。

資料2の議事録は承認でよいか。

一同：(異議なし)

委員長：議題①に入る前に私から提案がある。

次の審議に間接的には関わるが、日本のジオパークで「保留」というのを世界と同様に採用している。それが1年程度になっているが、ここはユネスコ世界ジオパークのガイドラインと同じように最大2年までとしたいかいかか。その理由としては、ご存知のように、ユネスコがプログラム化してから日本のジオパークの申請率がガタッと落ちた。審査が厳しくなってきたせいでもあるが、ここで裾野を広げるために、つまり、世界への申請を増やすためにも、日本ジオパークの数を増やしたい。その際、審査に許容度が今まで以上に見えるよう、今までの1年から2年という形にしたい。みなさんいかが。

一同：(異議なし)

委員長：特に問題がなければ最大2年にしたいと思う。

【議題① 日本ジオパーク新規認定審査審議：蔵王】

委員長：議題①に入る。日本ジオパーク新規認定審査審議の蔵王。これに関しては副委員長が利益相反になるので、議論には参加しない。結論が定まった段階でコメントをいただくという形にしたいと思う。

副委員長：承知した。

委員長：蔵王の現地調査は8月7日から私と委員と調査員の3名で行った。

それでは調査と一緒にいった委員から報告をお願いします。

委員：蔵王ジオパーク構想は新規の申請になる。

8月7日から9日にかけて委員長と調査員と私の3名で現地調査を行った。お手元の評価結果案を見ながら説明させていただく。

まず、主な評価点としては今年4月に地球科学専門員の新規雇用があった。また、教育委員会の職員の2名が在籍し、考古の専門員の協力が得られており、推進室の強化を非常に積極的に実施している。

それから、財源確保をここ3年間、それぞれ2~3千万円を得ている。そういったところで積極的な活動が行われているのが認められた。

2つ目は、町の教育委員会が中心になっているが、ジオパーク要素を取り入れた学校教育が活発に実施されている。特に、蔵王高校のクラブジオパークが中心になって、地域の大地の恵みを伝える活動が活発に行われていた。

3つ目は、これまで酪農業などの事業者や観光ガイドが地域の魅力を発信し続けている。我々が接した事業者はジオパークを非常に理解しており、パートナーとして協力を前向きで、協議会としてもパートナーの確保の動きが進んでいる。

4つ目は、蔵王の山の頂上にある樹氷を作るアオモリトドマツが枯れているという被害が山形県ないし宮城県で発生しているが、それに対してジオパーク構想は定点観測等のサポートに積極的に取り組んでいる。また、町の地元企業と連携したゼロカーボンの取り組み等を行って、地球環境を守る活動が実施されていた。

5つ目は、蔵王古道にある神社で刈田嶺神社が3つあるが、それを祀る伝承芸能、そういった信仰の歴史や、かつての金鉱山の繁栄に伴い発展してきた温泉街やこけし文化が存在しており、それらの特色に基づく文化サイトが色々と設定されており、蔵王山を始めとするジオサイトと共にジオパークとしての素材は整っていると評価される。

一方で改善を求めるとしては、非常に重要でジオパークのアイデンティティであるロゴマークがまだ作成されていない。これは当然早急に作成していただき、ロゴマークをパンフレットや看板等に活用し、可視性の向上あるいは地域一体感の醸成が必要と思われる。

2つ目は、2つの拠点施設候補があり、そのうちの1つにイノベーションセンターがあるが、この施設が機能しているとはとても言い難く、整備状況が不十分である。ジオパークとしてどのような施設の位置付けで、どのような機能を持たせようとしているのかが不十分なのでその議論が必要だと思う。

3つ目は、管理運営に関してマスタープランはあるが、全体として具体的な実施計画が欠けている。やはり、事務局が主導してジオパークで何をどのように表現したいかということの統一感を持ってできるような戦略的計画を策定して進んでほしい。

4つ目は、現在のジオパークエリアは蔵王町が中心になっているが、ただし山頂部では川崎町、セヶ宿町の一部を入れて境界線を設けている。これはユネスコが勧める自治体境界を利用したジオパークエリアの設定と相反しているので、蔵王エリアを今後どのように扱っていくのかということについて将来的な周辺自治体への領域拡大も視野に入れて、住民が納得できるようなエリア設定に向けて協議が必要だ

と思った。

5つ目は、現在の蔵王ジオパーク構想にガイド団体が4つある。メンバーも重複しているが、積極的な活動や質が非常に高く今後展開も期待できる。その一方でジオツーリズムを担っているガイドの会の拠点の模索や、現存のガイド団体同士の連携、観光事業との融合、といったところがもう少しかなと思う。当然、ガイドの質の向上等の取り組みも必要かなと思う。

6つ目は、酪農業や農産物等の魅力的なパートナーシップ候補はあるが、まだ正式な協定がない。これについては締結を進めていき、その結果としてパートナーとの地域の持続的な発展のために共通認識を高めていくことが必要だと思う。

7つ目は、観光の関係団体と協議推進委員会とで既存の蔵王ブランドがある。それを活かした持続的な発展を協議していくとともに、ジオパークでも蔵王ジオパーク認定商品制度というのを設けようと動いているので、そういったものの導入と、蔵王ブランドとの連携をどう考えていくかということ協議していただきたい。

8つ目は、解説板は日英の併記がされていたのでその点については非常に高く評価できる。その一方で内容をかなり盛り込みすぎていて難しくしている。伝えたいポイントを明確化して、簡潔に分かりやすい内容への改訂が必要であると感じた。

また、エリアマップにまだ境界線が入っていないので、そこも明示することが必要である。また、実際マップを持って訪問者がジオストーリーを楽しめるようなリーフレットやパンフレット作りをしてほしいと思った。

蔵王山地は活火山だが、解説看板はあるが、活火山や防災に関する説明が入っていないので、これは当然盛り込まなければならないと思うので、早急に取りかかってほしい。

最後に、ジオサイトのリスト整理は行われているが、それをどうやって保全や管理していくかというサイトカルテがまだ出来ていないので、それを今後しっかり作っていただくことが必要である。

以上の主な良かった点と改善を求める点を総合的に判断すると、今回の蔵王ジオパーク構想については、「見送り」ないし「保留」というのが評価になる。

委員長よろしく願います。

委員長：事務局に聞くと、もう1年くらい後に申請を出したかったという内情もあった。協議会長の町長が目指している方向と、事務局と住民が話している方向が少し違うかなという印象を受けた。町長は山頂部のお釜と樹氷を目玉にして人を集めたいと言っているし、事務局と住民は色んな議論を通して、蔵王の水の恵みや、3つある火山のうち、白石カルデラがあった所に田んぼが出来てそこに水を流したことによって非常に潤ってきたというようなストーリーを考え始めている。

一番ショックだったのはロゴマークがないこと。そういう意味でビジビリティと、ジオパークを使って何をしたいのかというところの議論がまだ足りていないという印象を受けた。

調査員全員が非常に厳しいと思ったが、逆に良いところを取り上げ始めると、中々いい要素があるなと片方で思っている状況。

みなさんからご意見をいただければと思う。

委員：地図を見ると申請しているエリアと国定公園、県立自然公園が重複しているようだが、サイトの保全の面や案内板と解説版、ビジターセンター等のそういった自然公園の利用施設とジオパークがつながろうとしているのか。また、国定公園と自然公園の管理になっているのは県の自然保護官になると思うが、町の取り組みと県の自然保護官で協力関係ができていけばいいなと思うが、その辺はいかがか。

委員：その件に関しては、今回は指摘事項には書かなかったが、協力関係はできていると感じている。その

ため、そういった方で協議会に通じている人をオブザーバーではなく協議会のメンバーとして取り込んで、やっていけばいいのかなと思っている。

ただし、看板等についてはジオパーク自体がそういうところと連携を取れていないので、いくつか乱立している状態ではある。そこら辺を少し改善していかなくてはならないと思った。

委員：前回の委員会は、私は欠席だったので議事録で確認させていただいた。

前回の委員会では、名称について議論になっていたが、報告書にはエリアをどうするのかということを書いてあるので、そこにこういったニュアンスも含めてあるのかもしれないが、エリアや名称については今回の調査では議論になっていないのか。

委員長：前回の委員会で議論して、カッコ付きの宮城蔵王エリアにするという話も出てきていたが、現地に行くとそんなに違和感はなく蔵王町が前面に出てきている。なので、蔵王ジオパークには抵抗はなかったの、審査の中はそういう議論は持ち出していない。

委員：山形市等にはもともと環蔵王という形で防災について協議・活動されているという経緯があり、そうした中でジオパークとしてやっていこうという話があった。山形側は色々な理由があったかと思うが、一応身を引くという形をとられている。

そういう意味では、自分たちの蔵王が前のめりという感じではなく、一応、周りの市に対しては、そこは理解しているのは見えた。ただ、川崎町や七ヶ宿町は、蔵王の山頂の所のレストハウスや、馬の背のカルデラが入ってしまうので、蔵王町だけではエリアを吸収できないので2つの町を入れており、オブザーバーとして協議会には参加している。川崎町にしても七ヶ宿町にしても、ジオサイトエリアでもっと面白い所はあるとは思っているので、そういったところも含めてジオパークエリアについて、もっと考えてもいいのかなと思う。

委員長：次、お願いします。

委員：今の話に関連して、川崎町と七ヶ宿町の境界線未定問題があると思うが、山形側との境界線は明瞭なのか。

委員長：県境は入っていない。

委員：川崎町と七ヶ宿町との境界が未定であるがゆえに一筆書きができないから、川崎町を含めるという感じなのか。

委員：レストハウスと馬の背の2つのエリアが蔵王町の外にある。どうしても蔵王のお釜やレストハウスも考えると、2つの町を入れてやらざるを得ないという状況。

委員：「レストハウスがあるがゆえに」というところが非常に弱いところ。

委員長：その通り。問題は意識していて、協議をしてレストハウスを入れるということは了解されている。ただ、それは将来的に担保されるものではない。将来の領域拡大も見越してどう展開していくのかということ議論し続けてほしい。

委員：例えば、行政界以外に国立公園界や林班界にそういう線はないのか。

委員長：林班界まで入れるとあるかもしれないが、いずれにしても自分たちで勉強会を開いて検討を始めているところ。

委員長：次、お願いします。

委員：先程の話にも関連するが、蔵王という名前できくられる地域と蔵王町は一致していないので、例えば、将来的に蔵王ジオパークのブランド商品等を開発した時に、他の地域で非常に似た名前を使っている商品がでてくる可能性もあるので、そういった時のブランド管理に対してはある程度ジオパークとその周辺地域と少なからず協議があって管理したほうが良いように思う。ジオパークになっていないのでブラ

ンドはまだ始まっていないと思うが、そういったことを見越して何かしらのアイデアはあったのか。

委員：まだそこまではとてもっていない。元々ある酪農や農産物、そういった物でいくつかで「蔵王」という言葉をつかって商品化されているが、先程委員がおっしゃったように、蔵王は山形県を含めて蔵王ということもあり、その議論はあまりされていない。ジオパークとしての商品考えた時に、名称をどうするかというのはかなり議論しなければならないことなのかもしれない。

委員：私は仙台出身なのだが、蔵王ブランドは結構大きく認知度も高いので、すでに使っているところもそれなりにある。行政レベルになると思うが、ある程度リストアップしたり、使っているエリアを認識して助言をしておいた方が後からトラブルにならないのではないかと感じる。

委員長：ありがとうございます。

ただ、ジオパークだと「ジオパーク」という名前を付けるので、それはここにしかない。ジオパークをつける限りは蔵王の品物は蔵王ジオパークの品物である。なので、そこはあまり問題ないと思う。

委員：例えば、ジオパークと言わなくても、ジオとつく商品が全部ジオパークでいいのか。蔵王温泉は山形側なので、どうなのかという話になる。ジオがついているからいいという話になると、またちょっと違いかもしいないので、そこら辺は意見交換をする場所みたいな場所があってもいいのではないかと思う。

委員：確におっしゃる通り、例えば、蔵王駅は山形県にある。もちろん「蔵王」という言葉はそのエリアを含んでいる。おそらくブランド名力を高めてほしかったのではないかと思う。今言ったように蔵王駅は山形側にあるが、ジオパーク〇〇商品は蔵王ジオパークエリアにあるというのを高めていくしか今の「蔵王」という言葉を使って解決するのはそれしかないという気がする。

委員長：いずれにしても、「ジオ〇〇」というのはやめたほうがよくて、必ず「ジオパーク」を付ける。それが世界的な流れである。

次、お願いします。

委員：蔵王町のホームページで、「ジオパークとは」というページの更新が2021年2月8日になっており、現時点で世界が44か国161地域になっている。現時点とは2020年7月で、日本のユネスコ世界ジオパークが9地域で、日本ジオパークは43地域になっており、アップデートされていない（蔵王ジオパーク構想に関するウェブサイトが複数あり、情報が古いままのサイトがあることが会議中に確認された）のが非常に気になる。

委員長：ありがとうございます。

他には何かあるか。

委員：次に現地調査するかしないかというところにかかってくるかもしれないが、ビジビリティが非常に低くて拠点施設の整備があまり進んでいないという指摘だったが、質はどうだったのか。例えば、質も低くて情報も不足しており現地のビジビリティが低いという場合は、やはりもう一度現地に行って確認する必要があるのではないかと思う。施設の展示内容もただジオパークと書いているだけでなく、蔵王のストーリーもきちんと展示されているのかということも気になったのでお伺いしたい。

委員：ポスターが何枚か置いてあるだけで、蔵王ジオパーク構想がどういうものであるかというのをとても発信できているとは思えない。蔵王ジオパーク構想があるのかということのもほとんどの人が知らないのではないかという感じを受けている。

委員：それは今後の計画の中で、その辺りは拡充される予定はあるのか。

委員：2つの施設候補があり、ジオパーク展示用に改修をし、そこに色んなものを置いていく計画はある。一方で、この改修費が来年度50万円しかない。そうすると、桁が1つ違うのではないかという状況ではある。

ビジターセンターについても、町の温泉街の民家、商業施設の建物を借り受けてやっていく計画もある。それから、役場と温泉街の中央辺りにビジターセンターの施設を建てようという計画はあるらしい。それも建ち上がるのが10年後以降になるようである。そういった意味で拠点整備がかなり問題かもしれない。委員：50万円という数字にかなりの衝撃を受けてはいるが、例えば向こう2年間で拠点施設の整備は解決まで至るのか。

委員：そこはできていない。看板等は非常に綺麗な物が出来上がっていて、そういったところにはお金がかかっている。どこに置くかなどの交渉を含めたところがまだまだ進んでいない。例えば、拠点施設も役場の1階の所に置くという案と、向かいに文化センターがあるのでそこに置くという案があり、それをどちらかにするかは決まっていない状況ではある。おそらく文化センターのほうが多いし、土日也可以使用できるので、文化会館を優先に考えてはいると思う。実際に、他にはこういう物を置きたいとか、このエリアにこんな物を置きたいという案は示していただいたが、具体的に進んでいるかと言われるともうちょっとかなと思った。

委員：蔵王町の中に既存の博物館があると思うが、そういう所との連携はあるのか。

委員長：博物館は無く、資料館はある。

委員：資料館とジオパークは連携していないのか。

委員長：担当者はジオパーク事務局の構成員なので、小学校に対して学習会を催したり、現地調査の案内をしたりしていた。

委員：難しい問題。ありがとうございます。

委員長：あと、こけし館でもビジターセンター的になっているが、ただ、フロアマップがあり、どこがジオパークだというのがきちんと明示されていないという問題はある。

委員：こけし館に旅行者として行って、このサイトに行きたいと言ったら、そこで回答が返ってくるシステムなのか。

委員長：それはない。

とにかく3月に協議会ができたばかりなので、申請が早すぎるという印象はある。

委員：承知した。

ちなみに文化センターに拠点施設を設置した場合、訪問者が訪れやすい場所なのか。

委員長：蔵王に行く時の幹線道路の入口なので問題ない。

委員：ポテンシャルはあるということか。

委員長：そう。

委員：整備したら活用を望めるのか。

委員：役場の向かいに文化センターがあるので、そういう意味では外から分かりやすいし駐車場も広い。文化センターをきちんと整備をし、入口を上手くつかえればいいのではないかと思う。

委員：50万円で出来ることが限られている。

あと、オンサイトの中で、ロゴマークが無いだけで、それ以外はジオパークを示すようなビジビリティは確保されていると考えていいのか。それとも、その部分も不足しているのか。

委員長：まだ案内板等は十分整っていないくて、ジオサイトにはちゃんとした綺麗な看板がある。これも少し直す必要はある。

委員：承知した。

例えば、これが保留になった場合は、2年後書面だけのやり取りでジャッジできるのか、それとも現地に行くべきなのかというのは、少し考えたほうがいいのではないかというのが個人的な意見。

委員長：蔵王がお金を払うかは別にして、現地を確認するミッションは必要だと思う。

委員：承知した。ありがとうございます。

委員：私も同じような意見で、保留に対しても、どういう事をこの2年間でクリアしたらジャッジできるかというのと、50万円の来年度予算だとかなり難しいような気がするので、そういった財政規模を含めてレコメンドしてあげることが必要だと思った。

2月にアポイに行かせていただいて、一般に各協議会の財政基盤もある中で、世界基準をレコメンドして対応できるのかということまで考えていかなければならないということ強く感じた。逆にここはリソースも揃っているしやる気もあっていいなと思うので、この2年間というのを設けた時に、何をどうすれば認定されるのかを言ってあげられるかということが大事だと思う。

委員長：ありがとうございます。

通知書案はできており、その案には1年を2年にすることを一応書き込んでいる。これは必ずしも実現不可能な課題ではないとは見ている。

事務局：(通知案をプロジェクターで共有)

委員：おにぎりみたいなのはロゴマークではないのか。

委員：これは蔵王町のロゴマーク。実は我々もそれがジオパークのロゴマークだと思っていた。色々話を聞いていくと、これは蔵王町のマークで、ジオパークのロゴマークはないという話だった。

委員：それを兼任してはいけないのか。

委員：現地調査をして思ったのが、事務局の方が役場の方だということもあるが、同じロゴマークにしてしまうとかなり役場寄りになってしまう。これはどこのジオパークでも同じことが起きていると思うが、もう少し役場と離れて、協議会マターで動かそうとすると、ロゴマークは別の物にしたほうが動かしやすいし、独立性が高いという感じがする。

委員長：通知書案の2番目までが2年以内。

委員：質問だが、「おおむね1年以内」と「2年以内」と書かれているもので、それを選別する基準としては実施が可能かどうかということだったのか。それとも1年以内のものはジオパーク認定が可能なのか、何を目安に保留にしているのか。ジオパークとしては最低限揃っていないといけないことがあると思うが、2年以内に入っている気がするので並び方がちょっと気になったのと、最低限クリアしなければならないものはもうちょっと明確に通知書案に書いたほうがいいと思った。

委員長：ご指摘通りで、通知書案は指摘事項を難易度順に書いてあり、簡単なほうを上にかけているという意図がある。それを2までクリアすれば保留という意識では書いていない。もし、保留という形で作るのであればこの通知書案の中身を変えるが、もう少し文章を練ったほうがいいと思う。

委員：もう1点いいか。

委員長：どうぞ。

委員：1年間ジオパークと同等の運営をしている地域がジオパークに認定されるという条件があると思うが、蔵王は今年の3月に協議会ができています。この条件はクリアされていないという認識でよろしいか。

委員長：協議会があるかないかというのはあまり意味がなくて、ジオパークとして実質機能しているのかというところ。事務局は10年前からある。

委員：承知した。

委員：最初の時は、周辺の市町村も含めてということだったと思うが、そこから疲れ感というのは先程の報告を聞くとこの町ではないという認識でいいか。

委員：実は2018年に、火山との共生やジオサイトや文化サイトが掲載されている非常に良い冊子を蔵王町

が作成している。それを見ると、今回の申請書より非常に綺麗に色々と書かれており、何を問題点とすべきか、何を解決すべきかというところまで書き込まれている。しかしながら、この5年間でスケールアップしクリアしているものが少ない。そこはおそらく、周りの市町村を入れるかどうかにかかかって、やっと今年の3月に1つのチームが出来上がってきたという状況。

委員長：昨年の火山砂防フォーラムで高校生たちが非常に頑張っただガイドをしたということがかなりの引き金になっている。

進んで協議会を作るのと同時に、新しい専門員を下北から引っ張ってきた。非常に登り坂にきているのは確か。

委員：現実的な話になるが、市町村の予算の要求はおそらく今くらいから冬にかけてだと思う。先程、委員がおっしゃっていた、50万円しかついていないのか問題を含めて、ジオパークを推進する上でどれくらいの予算措置を考えられているのか検討することが課題だと思う。

委員：今、50万円だと言ったのは、拠点施設の整備に少なくとも必要な金額。けれども、実際には蔵王町の第5次蔵王町長期総合計画というのがあり、その中であと5年の予算が確保されている。そのため、おそらく町の中でどれくらいジオパークに予算を使うのか、その予算が必要だという声があがれば、計画の中にジオパーク計画が盛り込んであるので、予算はついていくのではなかろうかと思う。

委員：申請書を確認したが、予算が2023年で2,700万円ほどが交付金や補助金でまかなわれているが、これの用途はどのような内訳になっているのか。

委員：そこまで確認していない。

委員：承知した。

委員長：そろそろ判断をしたいと思う。

ほかに何かあるか。

委員：しいて言うのであれば、他のジオパークから支援を得たほうがいい気がする。宮城県には栗駒山麓と三陸ジオパークがあるので、そのジオパークの運営体制や認定商品等の取り組みを参考に、もう少しネットワークをつかった基盤あるいは運営体制を参考に組み直していったらどうかと思った。

委員：そこは下北から専門員が来たので、何をどうすればいいのかという経験値が期待されているのではないかなと思う。その専門員も今年の4月からなので、まだこの申請にはとても間に合っていないし、今、急ピッチで色々な活動をしていると思う。従って、他のジオパークとの関係を模索していくというのは今後十分考えられると思っている。

委員：ありがとうございます。

委員長：消化しきれない感じはあるが、時間もあるので結論を出したいと思う。

まず「見送り」の方は手を挙げてもらい、その次に「保留」の方に手を挙げてもらう。棄権もあるので、先に棄権を聞く。

委員：1つだけ聞きたい。最近で「見送り」及び「保留」で例があったと思うが、その時のことを聞きたい。

委員長：事務局からお願いしたい。

事務局：「保留」の例は過去に4件ある。

最初が2013年のとち鹿追。その次が翌年の苗場山麓。2017年に島根半島・宍道湖中海。この3つはいずれも新規申請で、秋の委員会で「保留」となっている。その次の冬の委員会で「認定」になっており、かなり短期の間で認定になっているパターン。

直近では桜島・錦江湾のエリア拡大の時の「保留」があり、この時は1年まるまるかけて報告書をあげて認定に至っている。

以上4件になる。

委員長：桜島・錦江湾はいつ認定になったのか。

事務局：2019年度に「保留」となり、2020年度の2021年2月5日の委員会でエリア拡大が認定となっている。

委員：通知書案に書いてある2年以内のことを全部クリアしないと無理という認識でいいのか。そもそも保留することに当たり、何がどの期間内でクリアされたらOKになるか分からないと、とても判断しづらい。

委員長：通知書案に書いてある2つのことと、他のことは後で加える。とにかく、最初の2つをクリアしたという報告書をもらう。

事務局：少し補足させていただいても大丈夫か。

委員長：はい。

事務局：案の中にはその一文が含まれていなかったが、今まで保留の際には通知書を送付する際に、今回であれば1.2の課題の対応を2年以内に実績を日本ジオパーク委員会に報告してくださいという一文を入れることを考えている。なので、そこは明確になる。

委員：実績報告のみで、現地確認は求めないのか。

事務局：保留については、今回の議論で2年になり、これでユネスコ世界ジオパークと同じ仕組みになるわけだが、ユネスコ世界ジオパークのほうでは、ガイドラインの中にしっかりと、保留の場合は最長2年までの間に改善し報告書をあげるということが明記されている。見送りと保留の大きな違いは、保留では、現地調査を改めて実施せず申請をし直さない。今回課題を指摘されるわけだが、その指摘された課題に対して、どのように対応して改善したかということの報告書を委員会に提出していただくことになる。報告書の提出後、直近の委員会の中でまた審議していただくということになる。

委員長：皆さん、よろしいか。

委員：その前に現地に行って確認作業はしなくてもいいということなのか。

委員長：委員会として現地に行って確認するという事は直接しない。直接はしないが、誰かが必ずは行っているので情報は得られると思う。

委員：プレスリリースにも保留とはどういうことか書いてあげるといいと思う。ダメということではないというのが伝わればいいかなと思う。

委員長：それでは「棄権」の方から聞く。その次に「認定」の方。それから「見送り」、「保留」の順番に聞きたいと思う。

「棄権」に投票する方はいるか。

(挙手なし)

事務局：先程、委員がおっしゃった調査を非公式にではなく、サポートミッションとしてはありだということになる。それは今回の保留の場合にも行うことになるかと思う。

委員長：委員、お願いします。

委員：保留についてもう一つ聞きたいのだが、サポートミッションで2年後、例えば委員長や誰かが行かれた後でまた保留になる可能性はないのか。そういう時はグリーンかレッドになるということか。

委員長：その通り。

事務局：一応、ユネスコの世界ジオパーク・カOUNシルの事例をそのまま準用しようとする、この保留は2年間有効ということになり、1年後にレポートを提出してきた地域があり、達成度が低い、そのまま保留の継続になった例はある。

2年が有効期限、サポートミッションは2年間のどこかでする想定になるかと思う。

委員長：ありがとうございます。

「認定」に投票する方はいるか。

(挙手なし)

委員長：次、2年までの「保留」に投票する方。

(11名の挙手)

委員長：「見送り」に投票する方。

(3名の挙手)

委員長：ありがとうございました。

多数決により2年間の「保留」という形で決着した。

続いて、簡単に副委員長からコメントをいただきたいと思う。

副委員長：現在、蔵王の推進アドバイザーを務めているため本日の審議には加わらなかった。

8月8日に皆さんの現地調査に同行した。今日は委員の皆さんが大切なところを丁寧に議論してくださったので、蔵王ジオパーク構想も期限2年間の中で準備をどんどん進めていけるのではないかと思う。

私にとっても蔵王町がジオパークに向けて10年間色々やってきた中で、近年、ジオガイド養成や「蔵王の達人講座」の開催、蔵王高校の取り組みなど、市民や高校生を巻き込みながら、蔵王のジオパーク作りが進んだなという思いがあった。

さらに、嬉しかったことは、ガイドがジオパークのエリアの中の資源や文化サイトを色々見せる化するような説明がしっかりとできるようになってきたので、蔵王のジオパークのコンテンツの広がりを感じた。また、宮城県では色々な部署がサポートしてくれて、説明看板も県の予算を使いながら整備をしていた場所も結構あった。

宮城県の県南には、大河原地方振興事務所という出先機関があり、調査の前日から泊まり込み、所長や部長が終日調査に同行してくれた。今、県南ではアドベンチャーツーリズムを推進しようとしている。これは、蔵王ジオパーク構想と連携してアウトドア観光の充実を図ろうということなので、是非サポートをよろしくお願いします。

委員長：ありがとうございます。

それでは記者発表の資料作成の確認をする。

(記者資料発表作成)

【議題② 山陰海岸ユネスコ世界ジオパーク状況確認】

委員長：それでは議題②に入る。山陰海岸ユネスコ世界ジオパーク状況確認ということで、この間に現地やオンラインで会議等が行われたが、そのことについてまず事務局から願います。

事務局：昨日、山陰海岸ジオパークのほうから資料が届いた。まだ皆さんには共有していないが、10月4日に記者を対象とした勉強会を開催するというので、記者に対しての勉強会について事前に相談があった。まず、記者に対して基本的な資料を作成して情報アップデートを徹底しないといけないということをお伝えしたところ、資料を作成してこられて、この資料の中にこの間の経緯がまとめられているので、それを使って説明させていただこうと思う。これはまだ一部修正が必要な箇所もあるかと思うが、1つは、ユネスコ世界ジオパークは今のユネスコのプログラムだという基本的なことが書かれている資料と、もう1つ

が現在までの経緯、概要が示されているものになる。5月以降に何があったのかというのをここでまとめられている。JGC、JGNが所々にでてくる。

8月になると地質物品販売タスクフォースというものが構成され、こちらはJGCとJGNにも声が掛かって、それぞれ2名ずつタスクフォースの委員として構成メンバーに入っている。日本ユネスコ国内委員会事務局である文科省にもオブザーバー参加していただいている。

9月27日に第2回地質物品販売タスクフォースが開催された。その間、5月の幕張でJGCが終わった翌日にJpGU(日本地球惑星科学連合大会)のパブリックのジオパークセッションで、地質物品の販売の問題をテーマとしたセッションがあり、そこにはJGC委員の皆様にも研修として出席していただいた。その直後に、山陰海岸ユネスコ世界ジオパークの事務局とJGC委員長と副委員長、委員1名と私が打ち合わせをさせていただき、今後どのようなサポートを出来るのかの相談をした。

その結果、委員が中心になってワークショップをしましょうということになり企画を進めていただいた。9月26日の地質物品販売に係るワークショップ開催ということだが、これは事情があり、実際に現地には私たちは誰も行かないという形での開催となった。その辺りのワークショップ等、どのようなサポートが必要かというあたりは、委員から報告をお願いしたい。

委員：ワークショップについて事務局から話があったように、5月21日にJGC委員長、副委員長、JGN事務局長と委員でワークショップの開催内容の地質物品の取り扱いについてどういうふうに進めていくのか話し合いをした。その中で、だんだんに進めるということで、レプリカを作り実物以外に価値を見出す体験を生み出すところから進めてはどうかという案がでた。レプリカ作りのワークショップで、山陰海岸ジオパーク全体、ミュージアムの学芸員も含めてワークショップの計画を進められたら良いと思った。近隣の有力博物館関係者やJGC委員も加わって、レプリカを作るための標本を選びから、出来る限り連携・共同をしていくような考え方で進められる予定だった。目的は、事業者を含めて多様な参加者に実物でない物の価値について考えるきっかけを提供すること。6月下旬から7月上旬あたりに、レプリカのワークショップはかなり時間がかかるので、急いで進めるのではなく、じっくり準備しながら進めましょうということになった。代わりに、地質物品について考えるワークショップをグループワークで行って、JGC委員がファシリテーターになって9月に実施することになった。この時の目的は、多様なステークホルダーが自分の考えや体験を語って、それを共有することで地質物品の取扱いについて考え始めるきっかけ作りをすることだった。

ワークショップの日程が9月26日、27日と決まりJGC委員とミュージアムの学芸員が話し合うきっかけを作ってもらった予定だったが、ミュージアム・ショップ共に25日、26日は夏休みをとる職員が多く対応できないことが9月6日に分かった。

重要なステークホルダーが参加しない中でJGC委員が出張してワークショップを行う意味があるのか。単なる実績作りになってしまうので、山陰海岸ジオパークとしてはよくない経験になってしまう。急遽、関係者にメールでご相談させていただいた結果、山陰海岸ジオパークへの出張は取り止める形になった。

現地には中止について認めていただいたが、現地では、事務局主体でワークショップをやりたいということで、9月26日に学識専門員とジオパーク専門員がファシリテーターとなりワークショップを行った。現段階でJGC委員がワークショップを行う予定は未定で、レプリカのワークショップも白紙に戻った。

現在はタスクフォースが設置されているので、進め方についてはタスクフォースの中で議論していただいて、現在の状況に合わせて誰が何をしていたらいいのかというのを議論すべきだと思う。

タスクフォースに関しては、JGCから委員長、委員、JGNからは地質物品の収集・販売を減らすための情報発信WGのリーダー、JGN事務局長が委員に委嘱されている。

1 回目が 8 月 24 日に開催されたが、日程調整がよくなかった。メンバーに伺いもなく時間を変更された。委員は学会の発表の時間が被ってしまい、Wi-Fi の環境もなかったので参加することができなかった。2 回目はワークショップの翌日 9 月 27 日に行われた。

タスクフォースの何をやるかということだが、当然地質物品の取り扱いについて取り組むが、「地球の記憶」の権利に関する国際宣言の理解を拓げるためにどのように動いたらいいのか、ジオパーク内における地質物品の販売を制限する必要性をどう広めていくのか等、地質物品の販売を行っている事業者や個人に対して、それに代わる持続可能な方法はどのような具体的支援を行ったらよいか等を含めて案を出していく円卓会議になる。

地質物品の販売と対策基本方針というのが出ていて、それが 6 点ある。販売事業者への対応をどうしたらいいのかということをもとに進めている。

9 月 26 日のワークショップは、ガイドを参加者の中心として開催された。したがって、多様なステークホルダーを含めたワークショップとは言えないが、ガイドは普及力が高い方々なので、積極的にジオパークに関わってくれる層を対象にしたワークショップとして記録すると良い。

前に幕張での運営会議でも使われた匿名で投稿できるやり方 (Slido) を使ってワークショップを行った効果が出て、かなり辛辣、そして面白い意見がたくさん出た。前向きな意見もあったが、やはり何でうちだけがという意見もよく出た。総じてエッジの効いた感想や不満、疑問などの色んな意見がでたので非常に良かったと思う。

ただ、先程お伝えした基本方針の中に「グループワークの場でアイデアを出し合っただけで出てきた意見はタスクフォースにあげる」という記載があるが、タスクフォースで報告されたワークショップで出た参加者の感想は良い意見だけが抜粋されたものだった。これを受けて、先日の第 2 回タスクフォースでは全体を見える化してほしいという意見が出た。さらに、できれば英語化して山陰海岸ジオパークの取り組みをリアルタイムで世界に発信することはとても大事であるとの意見が出た。

以上になる。

委員長：次、事務局お願いします。

事務局：5 月の JGC では、委員を中心としたワークショップによるサポートと、マスコミに対して JGC として何か働きかけができないかという提案がでていた。副委員長も現地に行ってサポートできるということで日程調整まで進んでいたが、ちょうどイベントがあるのでそこで講演会をしていただきたいと考えているというような話になった。ただ、それはサポートミッションでこちらが考えているものと違うということをお伝えして、それもまた振り出しに戻り白紙の状態まで今日に至っている。

マスコミ対応については、現地に 10 月 9 日から 12 日まで 3 人の調査員が行っていただく予定。その前の打ち合わせとしてオンラインでミーティングをされ、その中でマスコミへの説明は欠かせないということも副委員長から言っていており、それを受けての 10 月 4 日の記者クラブ向けの勉強会が山陰海岸で開催される予定。これは、豊岡市政記者クラブからリクエストがあったということで、そこ向けの勉強会で午前 10 時から 11 時まで開催するとのこと。説明は、ジオパーク専門員と学識専門員が中心に行う予定。勉強会なので、動画やワーキンググループでの成果等のスライドを使いながら説明をして、質疑に答えていく予定になっているそう。違う形ではあるが、マスコミ向けの説明会・勉強会というのが実現しつつある。ここに関しては、私や委員にもオンラインで同席していただけないかということも聞かれているので、今日のこの会議の中でそれをどうするのかを決めていただきたいと思います。

委員長：ありがとうございます。ただ今の報告について質問やコメント、追加などあればお願いしたい。

委員：確認だが、今度行われる記者クラブ向けの説明会は豊岡の記者クラブという話だが、鳥取側のマスコ

ミも京都側のマスコミも一緒に集めてやるべきだと思うが、そのあたりの参加者はどうなっているのか。
事務局：リストはいただいでいないが、今まで日本海新聞の報道は特に気になっていたので、日本海新聞は来るのか聞いたら来るとのことだったので、日本海新聞だけは確認することができた。何社来るかまでは聞けていないので確認をする。

委員：NHKも3つそれぞれ違う。

委員長：副委員長お願いします。

副委員長：こちらの共有している表には載っていないが、9月19日に10月に現地調査に行く、私たち3人のJGC委員と、タスクフォースに参加されているJGC委員にオンラインで入っていただいて、現地の事務局の方たちと議論をさせていただいた。主には10月の現地調査のスケジュールの話はしたが、その後に今の悩み事やもやもやしている事をディスカッションした。

その中でJGCの委員がとても大事なことを発言した。それは、「今の一連の課題に関しては、世界のジオパークでも同じような問題を抱えているところがあって、それを解決していくプロセスを今山陰海岸のほうで会議やタスクフォース、ワークショップを通して進めるのだから、それをしっかりと記録をして、それを世界に発信をしてほしい。これは世界の最先端の活動であるから」という趣旨であった。今の課題に対する対応や取り組みを是非可視化、見える化して世界に発信することは、私も大変大事なことだと思う。

今回のメディアへ理解を促す活動についても、JGCの委員が「こういった活動を通して、それぞれの人たちがどういうふうに意識を変化していったかということもモニターできたらいいのではないかと思う。例えば、アンケートや意見聴取等をイベント毎でしていただければいいと思う。」という発言があった。さらに「メディアの方や記者に対して、今回の説明会・勉強会で何が分かったのか、何に気が付いたかというようなところの意見を聴取していくことで、この取り組みが少しずつ地域の人たちの意識を変えていくプロセスになっているということを来年の調査に見えた方たちに伝えられるエビデンスを作っていく、一個一個の活動がエビデンス作りをしていく活動であるという意識をみんながお互い持って進めていくことが山陰海岸のためにもなるし、日本のジオパークの活動のためにもなると思うので、それはお互い意識してやっていきましょうという。」という意見もあった。

委員長：ありがとうございます。きちんと見える化し、記録も残して世界に発信するということが大事ということ。

委員：1点確認したいが、説明会・勉強会の時にJGCの委員が同席するということは、外から見たら話されている内容がJGCの承認を受けているような形になるのであれば、事前に勉強会で発表される内容を確認する予定はあるのか。モロッコの会議でも発表する内容については、かなりフォローがないと難しかったという状況を聞いたので、事前に勉強会の内容を確認する段階はあるのか聞きたい。

委員長：会議に参加する人もどういう内容を議論されるか事前に知りたいということか。

事務局：9月26日にワークショップがあり、これは私も遠隔でオブザーバーで参加させていただいた。その時と同じ資料を基本的に使うということで、地質物品の収集・販売を減らすための情報発信ワーキングの成果（プロジェクターで共有）をJGNのHPに9月にアップしたところだが、これを使うということで内容については確認済。他の資料についても、先程の共有していた資料等も事前のチェックをさせていただきをお願いしているので、それらは確認をする予定にしている。

また、仕組みについて何か誤認があってはいけないので、同席をして、もしも間違っていたらその場で訂正を入れたほうがいいと思っているので同席をしようと思っているがいかがか。

委員長：委員の心配はおそらく、リコメンデーションに対して向こうの解釈が全然違ったという歴史があっ

た上で、きちんとしたことに基づいて勉強会が行われるかどうか心配だということによいか。

委員：そう。

事務局：それに関しては、共有している文書の上のほうに実際すでに変な部分があって、誤解を招くようなことはやめましょうということで、まだ修正が必要だと思うので、そこはしっかり資料をいただいて事前に確認していきたいと思っている。

委員：記者の勉強会だが、現在は山陰海岸ジオパークと事業者が対話しづらくなっているのではないか。JGC委員のワークショップに参加しないことは、現在の状況や関係の表れを示す一つの成果だと思う。そういった関係になった原因は、やはり報道のされ方に大きな問題があったと思う。新聞記事に名指して批判されたというような受け取り方や、受け取られる記事の出し方があったと思う。そういう事を考えると、一つのプログレスとしてこの記者の勉強会があると思うが、この記者の勉強会で誤った情報を提供してしまうことは避けてほしいので、内容の確認が必要だと思う。

この勉強会も JGC が共催になるのか。

事務局：共催までとは言われていないが、同席を出来ればしてほしいと言われている。

委員：承知した。

共催になる場合は、委員がおっしゃったようにチェック、内容の確認がこれから必要になってくると思う。

副委員長：メディアに向けたチラシはもう作成してこちらにきているのか。

事務局：チラシはきていない。投げ込みでされるところなのでチラシはない。

委員：今回の勉強会の趣旨というのが、山陰海岸がどうなるかという経緯が地域のメディアに伝わっていないので説明をすることなのかと思ったが、もし某新聞がかなり強くある事業所を書いてしまったからそれを修復したいという意図だったとすると、JGC は入らないほうがいいかと思う。そこまでの意図があるとする、JGC は離れた立場で、JGN がサポート、オブザーバーで入るのはいいと思うがいかがか。

委員長：今の意見に皆さん同意されるのであれば、JGC は参加しなくてもいいと思うがいかがか。

事務局：いいと思う。JGN として参加し、間違ったことが流れない様に食い止める。

委員長：皆さんが JGC としてではなく、JGN で参加するのは構わない。

委員：このプロセスが山陰海岸の事務局のキャパシティビルディングにつながっていればいいが、そこはキャパシティビルディングにつながっているところもあるのか。

事務局：お願いできないかと言われたので、「それはご自分たちで資料は作りますよね」と伝えて、そしてらようやく色々検索をさせていただいて、「こんなものがあったんですね」というやり取りを今しているところ。なので、意識してなるべく多くを引き受けないようにしつつという調整はしていきたいと思っている。

委員長：今議論しているのはマスコミの勉強会をどうするか。それで全体の流れに対してもっとこうすべきだということや、ミッションの前に確認すべきだ等、もしあればお願いしたい。

委員：結局、今回のミッションは何を確認するのか。

委員長：それを確認したい。

事務局：それにちなんでいるが、今報告をしたのが地質物品の販売の問題だけだが、地質物品の販売の課題というのが、運営体制の問題があるからこの問題があるというところがキモだが、そこが何度も何度も繰り返し言っているが、ご理解をいただけているかどうかの手応えがまだない。それは運営体制だと人事や市町の調整や色々絡むので出せない情報もあるというようなことはおっしゃるのだけれども、それぞれが直ちに自分事として動かなければならないという時にちょっとそこが置き去りにされているのが今

の最大の課題ではないかと思っている。おそらく現地調査の際にもその話が中心にならざるを得ないと思っている。

委員長：今度実際に行かれる3名の方に、こういう展開の中でアドバイスミッションをどういう役割でできるのかというのを少しコメントいただきたい。

委員：とにかく地質物品販売の問題もだし、山陰海岸の様々な顕在化した出来事、運営体制がサステイナブルになっていない。定期的な人事異動でとどまる人が少ない。そうすると、見事にブツ切れになってしまって様々なオペレーションが必ず2年毎に振り出しに戻るとというのが繰り返されてくる。それが対外的に与えている影響も昔から全然変わっていない。むしろどっちかと言うと後退してきている。なので、そのまま課題が先送りの状態になって、前回の世界審査の時にそれが非常に大きな課題として指摘されて、今は大変な状態になっている。

ミッションの表向きの関わりとしては、前回ユネスコからいただいたリコメンデーションに対する対応状況の確認という包括的な表現になるが、その中で運営体制をどう変えていくかを前提にお話していかないとおそらく動かない。話が上手く引き継がれてこないのが地質物品の販売という課題が解決できない状態が続いてきてしまっているのも、そういったことを認識させるチャンスになるのかなという気がする。私たちとしてはそこが大事だと思っている。

あとは環境省の連携等に関しては、私は応援メッセージに近いものだと思っている。より現場が動くように仕向けていくというところ、そのミッション自体はそんなに大変なものではない。実は前回現場で私が見た時、環境省との連携については審査員から褒められている。そして、さらにそれをもっと強化したほうがいいという意味での応援メッセージだと私は受け取ったが、現地ではそうは認識していない。

現在は現場で現地審査に関わった人が抜けてしまい全く違う人が事務局にいるので、その当時、審査員が何をしたか、どういう空気感で何を言ったかを知る人がほとんどいないのが非常に大きな問題。あるいはそれを知っている人がきちんと事務局の中で機能していない。そういったことの改善を促す。そういうことをユネスコが求めていることを改めて言わないといけない。

国内外のジオパークネットワークの他のメンバー（ジオパーク）に対するこれまでの姿勢や対応方法を根本的に変えていかないといけない、と伝えたい。そういうチャンスをいかにミッションの中で作れるかが鍵だと思う。

委員：みなさんがだいたい今言ってくれたが、10年以上ユネスコ世界ジオパークをやっている中で、玄武洞の近くで地質物品を売っているのは最初から課題だった。それが課題だったことすらきちんと引き継がれていない状態で10年以上きた。その背景には、運営体制の問題がある。

その運営の問題を解決するために、ジェネラルマネージャが導入されたはずだったが、この問題にこれまで当事者意識がなかったという印象を受けた。なので、さまざまな初期からの課題がまったく引き継がれていない。

事実と論理に基づいてものを考える人が事務局にあまりいない印象がある。どうしたらいいか難しいところ。

とにかく問題は運営にあるんだということをきちんと行っていきたいと思っている。

委員長：次、副委員長お願いします。

副委員長：委員2名はすでに何回も山陰に行っているが、私は現場へは初めてなので、改めて現地調査をフレッシュな目で見たい。良いところもちろんあって、来年アピールをしていきたいところもあると思う。

お2人がおっしゃったように、このジオパーク自体の肝である運営体制に関しては、どうしても私たち

からしっかりと指摘をし、議論を深めていくことが大事だと思う。GM を含めた事務局の取り組み方についても少しまっさらな形で私が色々とお話をしてみたいと思っている。

各自治体から事務局に派遣されている職員は自治体職員としての自分たちの仕事をしていると思う。ただそこはジオパークを作っていく熱、当事者意識の醸成の必要性や方法についても気が付いていない点もあるので、是非そこら辺のところは難しいが、皆さんと現場で色々対話をして確認していきたいと思う。課題が山積しているが、その課題に対する意識の問題というのがとても大きいのかなと思う。出来るだけ色々な方とお話をしていきたいと思う。

委員：確か運営体制について、他の8つのユネスコ世界ジオパークにアンケートを出したという話があったと思うが、そのアンケートについてはどのような感じだったのか。

事務局：まだ結果は届いていないが、何のためにそのアンケートを取るのか趣旨が分からなかったので、アンケートをやるくらいなら他に先に優先すべきことはあると言った。しかも46の日本ジオパークを含めて運営体制についてアンケートを取りたいと言われたが、それは参考になりそうなユネスコ世界ジオパークの何地域かにインタビューをすとか問い合わせをすとかそういうのでいいのではないかと言ったが、どうしてもと言うので9地域に絞るとかもう少し焦点を絞ってやったらどうですかと言ったが、設問を私は全然見せてもらえないままにJGN事務局も承諾済なのでご協力くださいと書かれたアンケートが撒かれた。

委員：それは何でやったのかと言うと、ユネスコからのリコメンデーションに「他のUGGpの運営体制を参考にしつつ」と書いてあったから、「リコmendされたから短絡的にやっている」ようにしか見えない。事務局がそういう認識でいるから困る。

委員：運営体制に関して、意思決定と情報共有の流れが全然見えない。

委員：私は長らく山陰海岸にいたが、私がいた時から変わっていないなという印象。

2017年に委員長たちに現地調査に来ていただいてあらゆるレベルの連携を欠いているというイエローカードをもらい、そこから変わっておらず、豊岡の事務局の中でどんどん閉じてしまっていて、周辺に波及していない。学識専門員も今は県立大だけで、鳥取大や周辺の他の大学に広がっておらずどんどん豊岡で閉じていっている。

この間、中国の敦煌のジオパークに再審査に行ってきたが、敦煌と鳥取砂丘をつないで企画展が出来ないかというのを鳥取砂丘側に提案したら、やりたいが事務局を通さないといけなくなるととてもややこしいので少し待ってくださいと言われてしまい、結局事務局が地域のジオパーク活動の足を引っ張る存在になっている。

スタッフの問題も事務局自体は2年ごとに変わるが、例えば構成自治体の拠点施設の人たちは10年以上変わっていなかったりもするので、ジオパークに関する理解は非常に深いのに、中々そういった人たちがこういった場所でマネジメントの場面でも活躍できないし活動できない。全て豊岡で閉じてしまうというのが続いてしまっていて、いくら議論し続けても打破できていない。もっと有効な方法はないか。

委員：話を聞いてきて、地質物品販売というのと事務局体制も変わらないというので、これをいくら事務局と一緒にセミナーをやっても全然意味がなくて、やるとしたらトップセミナーをJGNが主催してやってあげるとのことだと思う。3府県の長、構成自治体の長を対象としたユネスコ世界ジオパークトップセミナーというのをそういった人たちを対象としてやる。

そもそもジオパークというのはこういうものだというのを行政の一機関のものとしてやるのではなく、独立した事業体がやるということの主眼としてやっている、そういう時にジオパークの構成員に各自治体の県市町の職員を出すということはどういうことなのか、どういうことが必要なのかということを含

めてトップセミナーでやらないと、いくら山陰海岸の事務局に対して、JGN、JGC がやっても難しい。ここを介して住民セミナーやメディアセミナーをやってもおそらく変わらないと思う。防災の世界もトップセミナーをやっている。なので、こういうことをしていけないといけないのではないかと感じた。

委員長：ありがとうございます。

次、副委員長お願いします。

副委員長：プロGRESSレポートの事務局体制の中で、事務局を構成している各自治体職員のエフォートが皆さん 100%になっている。100%の中身はどのような活動なのか今回それを聞いてきたいと思う。

今のトップセミナーの話もそうだと思うが、どこを向いて事務局の人たちが活動を進めているかというところでは、自分たちの出元の上を向いているのか、本当に地域の皆さんと一緒にやっているのか、エフォート 100%の方向性を確認したいと思う。

委員長：100%というのは事務所にフルにいないことではないか。

委員：少し不思議なことだが、プロGRESSレポートの地質物品の販売の項目でタスクフォースに関する「検討」がたくさん書かれているが、ミュージアムの web サイトを見るとそこからユネスコ世界ジオパークの言葉が消えているのを確認した。実際に 12 月のカウンスルの協議で、ユネスコ世界ジオパークであることがミュージアムのサイトに書かれていることだったり、パンフレットの中にミュージアムを 1 つの訪れる場所として紹介をすることだったり、ジオパークが推奨するツアーの中にそのミュージアムが入っていることだったり課題として示されていたと思うが、それがささやかではあるが改善点でもあると思う。なので、それをプロGRESSレポートに明確に書いたほうがよくて、「検討」だけではなくて、ジオパークの行動の中から発信があったので削除をしていますというところを見せたほうがいいのではないかとと思う。本当に消えているのであれば、事前確認の調査の時に是非説明を受けてほしい。

委員長：いいコメントだと思う。

次、事務局お願いします。

事務局：とてもいい視点だと思うが、その点はすごく難しいとっていて、というのも販売を無くすように働きかけていて、納得した上で無くすということになったら、むしろパートナーとしてジオパークと一緒にやっていこうとなってほしいというのがカウンスルでの議論だったので、その途中の経過としていったんはずしたというのはきちんと書くべきだと思うが、最終的なゴールとしてはやはりもっと一緒にやっているというふうにやっていきたいので、そのプロGRESSが 1 月末時点で提出する時にどこまで進んでいるかによって書く内容がかなり変わってくると思う。なので難しいが、期限はあるのでいったん 12 月には英語版を仕上げただけかかないといけないというのが今の現実なので、12 月時点で様子を見ながら書ける方向性を定めて書くという位置付けでよろしいか。

委員：はい。応急措置で書くのであれば全然問題ない。

委員長：ミュージアムショップの件か。

委員：ミュージアムの web サイト。

委員長：ショップのほうはそうだけど、ミュージアムは逆にジオパークの宣伝をしていて、中身を紹介したりしている。

委員：web サイトの話をしていたので、施設の中で上手くまとまっているか分かればいい。

委員長：確認しながらやる。

色んな難しい問題を抱えたアドバイスミッションになるが、なぜこんなにねじれてきたのか。元からそうだったかと言われればそうだった。とにかく議事録が全く存在しないというのも不思議な話で、作ってくださいと 10 回ほど催促してやっと作成し提出するという段階。そういう文化もあるし、これまで全然

伝わっていない、受け継がれていないことも非常に大きな課題がある。

なぜ GM を採用したかというのもよく経緯が分からないが、それは全てのレベルで連携がない、それから顔が見えるジオパークを代表する人が欲しい言った事に基づいて、前の会長が判断して GM を連れて来た。それも短絡的でよく分からない。今回、ミッションに行った場合は特に会長と 1対1 で面談してどう考えているのかということと、課題を突き付けて解決策を探るということをやってきていただければと思う。

その他はあるか。

委員：その際には府県知事には会うのか。

委員長：府県知事に会う予定はない。本当は知事を集めてやるのが最終的にはいいような気はする。そういう必要があるれば私も出る。

その他、特に注意しておかなければならない事やコメントはあるか。

委員：それを学んだマスコミがトップセミナーをいい感じで報道をするという近未来が見えたらとても素敵だなと思う。

委員長：その通り。ただ、トップセミナーをやるとまだ決めていない。方向性としてはいいと思う。

その他がなければこれで 2 番目の議題を終わりたいと思うがよろしいか。

事務局：今、プロジェクターに共有しているのが、先程言ったワークショップの中で使われたスライドで、今度記者向けの勉強会でもこのスライドを使うとおっしゃっているもの。

委員長：先程言ったように、このスライドにはいい事しか書かれていない。

事務局：これは経緯説明のほう。ワークショップでどうだったかというのではなくて、今までどのように取り組んできたかとか、県の連絡協議会ではどうだったのか、どんな集まりがこれまであったかなどの動きを紹介するようなものなので補足説明用。先程の 1 枚物もあるので、最早いらないかもしれないが、一応こういうスライドも準備されている。全て事前に見せていただいた上で、JGN として対応を考えたいと思う。

委員が先程説明されたせっきく slido でやってもっといろんな意見が出たのに 3 つだけを紹介しているというスライド。

委員長：このスライドを出すならもっと書き出せと伝えてほしい。

事務局：承知した。

委員長：ありがとうございました。

現地調査に限らず、これからも色々な現地あるいはオンラインでの誘いがあると思うので、その時は積極的に参加して意見を述べていただけるようお願いする。アドバイスマッションについても、レポートしていただくというふうにしたらいと思う。

この件も消化不良になってはしまうが、次の議題に移る。

【その他確認事項】

委員長：その他確認事項ということで、文科省で日本ユネスコ国内委員会の総会があったと思うが、その時に何か概要や情報があれば紹介していただきたいと思う。

事務局：9 月 21 日の第 153 回日本ユネスコ国内委員会総会にオブザーバー参加させていただいたが、白山手取川のこともご紹介いただいたと思うので、もし何かあればお願いします。

文科省：あまり大きな話はないが、関係するところで言うと科学小委員会の活動状況の報告の中で、白山手取川が新たなユネスコ世界ジオパークに認定されたということ報告させていただいた。

その他、特段意見はなかった。

委員長：ありがとうございます。

その他確認事項等願います。

事務局：今後の予定としては、日本ジオパーク全国大会 in 関東の前日 10月27日（金）の10時から全国大会の中央会場の銚子ジオパークで事前相談会を行う。これはJGC主催で、来年の申請を検討中の地域から申込みがすでに日本ジオパーク新規、ユネスコ世界ジオパークの国内推薦のほうもそれぞれ申込みがあるので開催する予定。全国大会で銚子会場に来られる委員の方は参加いただきたいと思っている。

対応は今年も国内の日本の新規の説明に委員長、ユネスコ世界ジオパーク国内申請に委員に願っている。

委員長：どこが申請予定か。

事務局：相談の申込み状況は、日本新規は三好、喜界島、大雪山カムイミントラ。今日の結果次第ではあるが蔵王。蔵王は念のために申し込まれているのだと思う。

世界の国内推薦の申請は鳥海山・飛島、Mine 秋吉台、下北、南紀熊野、霧島。いつも参加している桜島・錦江湾はまだ申込みがきていないが、もしかしたら追加されるかもしれない。

それから11月9日（木）の15時から調整中だが、JGC オンライン研修会で本日も欠席の委員に世界遺産について講義をしていただく予定。詳細が決まったら案内するのでよろしく願います。

委員：あとは世界地質遺産の推薦というのを7月に委員長と私がやり、喜界島と雲仙普賢岳を提出したということを確認いただければと思う。

これはJGCの仕事なのかJGASUの仕事なのかという事も含めて、JGCとして出したという認識で大丈夫か。

委員長：JGCではなくJGASUが出している。

委員：JGASUで推薦したということになるのか。

委員長：その通り。

委員：以上がJGC、JGASUの委員である私からの報告。その推薦した喜界島が、来年に向けて相談に来るという認識でよろしいか。

委員長：ユネスコ地質100選の2回目、2nd 100の中で雲仙普賢岳と喜界島が申請された。これが決まれば今年度中に案内が来て、釜山のIGCで表彰式という形になる。

その他はあるか。

事務局：今の話に付随してもう少し言うと、喜界島はかなり本気で、町長も来られる。ロゴマークも作り、協議会を立ち上げている。予算についても、協議会予算として今年度は無理だが、来年度からは協議会の予算で確保できそうというところまで進んでいる。

なので来年に関しては、まだ表明はされていないが、喜界島と三好は申請してきそうだという見込み。

委員長：この2地域とも世界までねらってほしいと思っている地域なので、是非サポートしていきたいと思う。

その他はないか。

委員：情報提供になる。11月3日から5日まで日本地形学連合が五島の福江で年次大会をする。それに当たり、JGNとJGASUに後援を願っている。

五島列島ジオパーク推進協議会のメンバーが中心に準備をしてくださっている。公開シンポジウムで「島と海岸」をテーマのシンポジウムにして、地形とジオパークを合わせたシンポジウムを公開で行う。その時に副委員長に招待講演を願っている。時間のある方は是非五島に来ていただければと思う。

委員長：ありがとうございました。

委員：日本活断層学会で活断層オンラインワークショップを開催する。11月12月でやる。

今年は関東大震災100年なので、国府津松田断層という神奈川県断層を中心にオンラインでワークショップをやりながら12月23日(土)に現地調査見学会をやろうと思っている。

箱根ジオパーク、ガイドの皆さん、苗場山麓、浅間山北麓の方々から申し込みをいただいている。まだ申し込み期限があるので、もしよければ皆さんにも呼びかけをしたいと思っている。

委員長：ありがとうございました。

次回の委員会の予定を事務局から願います。

事務局：次回は12月14日(木)に第50回JGCで、15日(金)に審査基準検討会議の予定している。

委員長：それではこれで終わりたいと思う。

長い間ありがとうございました。